

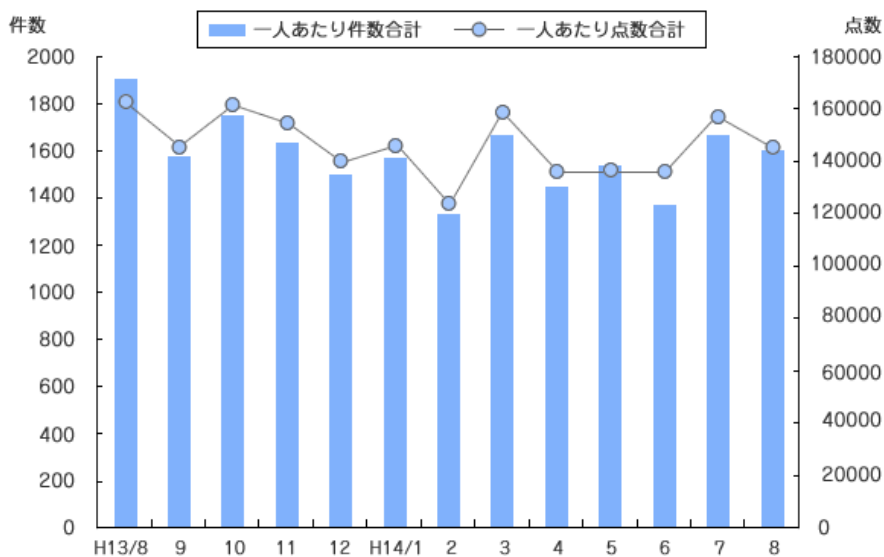
2002年 診療報酬調査 調査結果

対象	大学病院もしくは一般病院に勤務する理事18名
方法	2002年8月もしくは9月の任意の連続する1週間で、検査実施総件数を勤務日数、従事する視能訓練士総数で割り、1週間あたりの視能訓練士1名が施行した検査を保険点数換算して生産性を評価した。
要約	<p>他科に比べて検査が多い眼科では、件数だけでなくひとつひとつの業務内容が多岐にわたっており、この集計でも一人につきかなり多くの種類の業務（35種類）を一ヶ月にこなしている。総合すると件数では平均1200件前後となり、保険点数に換算すると10万点以上となる。今後ますます高度医療を必要とされる傾向がある中、検査の種類が更に増えていく可能性が大きく、実際にそれらの検査に携わる視能訓練士の役割はより大きくなっていくものと推察される。</p> <p>また医療の業務だけでなく、高齢化社会に伴い急増する中高年の低視力者のQOVのためのロービジョンサービス（視覚的補助具の選定や指導）などに関わる業務も増え続けている。</p>

検査項目	大学病院 (9カ所)		一般病院 (9カ所)		
	件数	点数	件数	点数	
矯正視力検査	348	25752	299	22126	
屈折検査	150	11100	158	11692	
調節検査	41	3034	10	740	
眼鏡処方	19	1406	23	1702	
負荷調節検査	16	2368	7	1036	
PL検査	3	300	9	900	
精密眼圧検査	161	13685	307	26095	
精密眼圧負荷	0	0	1	140	
眼筋機能検査	66	2508	37	1406	
両眼視能検査	49	1862	24	912	
立体視能検査	45	1710	12	456	
網膜対応検査	20	760	15	570	
色覚（色相配列）	1	60	1	60	
色覚（色盲表）	1	38	1	38	
涙液分泌	1	38	12	456	
中心フリッカー	8	304	11	418	
アムスラー	10	380	6	228	
動的視野検査	42	8190	18	3510	
静的視野検査	35	10500	25	7500	
斜視訓練	29	3915	15	2025	
弱視訓練	8	1080	8	1080	
角膜曲率半径	38	3382	60	5340	

眼底カメラ	18	1008	60	3360
パラロイド1枚	30	480	28	448
蛍光眼底写真撮影	0	0	5	2440
角膜内皮細胞撮影	3	480	13	2080
前房蛋白細胞数検査	0	0	11	1760
暗順応検査	0	0	0	0
E O G	1	260	0	0
Aモード	0	0	9	1350
Bモード	0	0	2	700
E R G	1	230	1	230
V E P	1	670	1	670
眼球突出度	1	37	3	114
細隙灯検査	57	5244	0	0
合計	1203	100781	1192	101582

■ 各月一人あたり検査件数&保険点数集計 ■



1大学病院による集計をまとめたもの（平成13年8月から平成14年8月まで）

月によってばらつきは見られるが件数では1400~1800件、保険点数では120000~160000点となる。